

vol. 2317

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 第45回九協 2.11平和教育研究集会
- 学びと交流の旅 in 大分

第45回九協 2.11平和教育研究集会

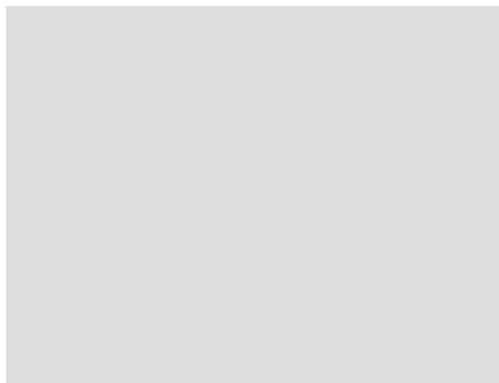
と き 2月11～12日 ところ ホルトホール大分

「第45回九協2.11平和教育研究集会」が、大分県で開催されました。この会は、毎年2月11日に、「憲法・『子どもの権利条約』の理念の実現をめざして、社会的合意形成を図りつつ、教育改革運動をすすめるとともに、平和・人権・環境と民主主義を守る運動を積極的に展開していく」ことを目的として行われています。

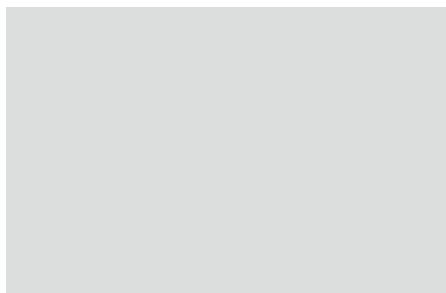
全体会では、広島県毒ガス島歴史研究所事務局長の山内正之さんを講師として迎え、「大久野島の戦争被害・加害の歴史と今日的課題」という演題での講演が行われました。大久野島は、陸軍の毒ガス製造所が建設

された歴史があります。戦争に使用され、多くの被害者を出しただけではなく、製造に従事することになった島民にも被害が及んでいます。敗戦に伴い、各地で毒ガス弾が遺棄され、戦後も被害者を出しているのです。

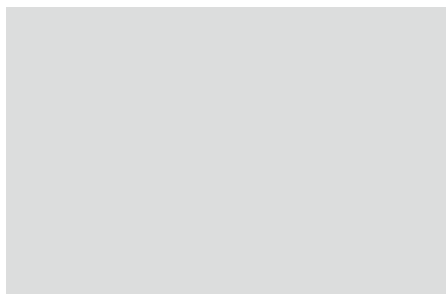
分散会では、第2分散会で、佐伯豊南分会の後藤遥さんが、リポーターとして、「佐伯市の戦争遺構と平和教育」と題して、佐伯支部での平和学習のとりくみをレポート報告しました。



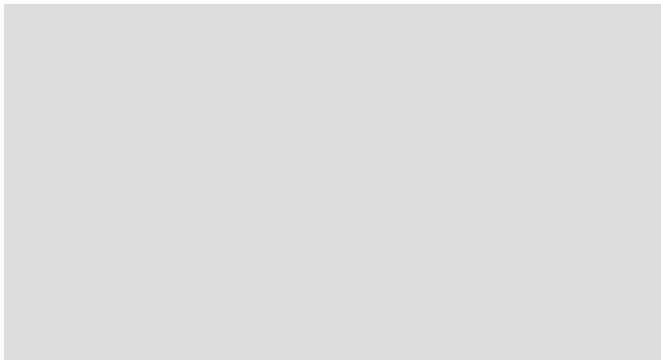
開催県あいさつ (福田副委員長)



講演 (講師：山内正之さん)



レポート報告者
後藤遥さん (佐伯豊南分会)



全体会

参加者の感想

○群馬の朝鮮労働者慰霊碑撤去の報に接し、平和教育まで政治的というレッテル張りして迫ってくるのではと感じていました。それでも戦争の実相を伝え、平和の意義を子どもたちに考えさせようとする報告者の皆さんのとりくみに、学ぶことがたくさんありました。1日目は義務制教組の発表2本でしたが、思想統制が行われていたことの学習の視点はあるべきと感じました。小学校でしっかり時間を使って子どもが自ら考える学習をされていて素晴らしいと思いました。

(中津東定時制分会 沼田庄司)

○私は今回2日目の分散会のみ参加でした。鹿児島県教組からのレポート発表があり、その後1日目のレポートのことも含めて、参加者で質疑応答や意見交換がありました。私が特に印象に残った言葉は「どれだけよい平和教育の教材(資料など)を残していてもそれを活用して語る人の熱量が大切。だから今あるものをどれだけ多くの人に伝えるかが重要」でした。また、鹿児島県にある「馬毛島」を軍事基地にする計画が進んでいることをはじめて知り、驚きと同時に不安な気持ちになった。身近で大分市敷戸地区のこともあり、私たちができる平和運動を強化していかねばと思った1日でした。

(大分豊府分会 伊藤洋敏)

○福岡県の古賀先生の発表聞かせてもらいました。身近な歴史遺跡や資料館などを教材にして平和教育をしている様子が理解できました。質疑応答でも議論となりましたが、受け取る生徒にどのように伝えていくかが課題であり、また伝えるだけでいいのかなど意見がありました。確かに伝えることは難しくないが、それでいいのか考えさせられます。学校周辺や、生徒にとって身近な教材を探してみます。全体会の山内さんのお話も、考えさせられる内容でした。加害の歴史とか意識したことなかったので、授業でも生徒に投げかけて、戦争の無意味さを訴えたい。

(大分豊府分会 中村修)

○1日目のみ参加しました。沖縄高教組の宮城先生の報告では「平和学習は玉結びをつくること、何もなければするっと抜けてしまう」という先生の言葉が印象に残りました。熊本高教組の丸田先生の報告では特に国語の授業や文化祭でのとりくみについて印象に残りました。どうしても平和学習というと力がこもる特別なものに考えがちですが、普段の自分の授業の様々な切り口から生徒同士に話をさせる機会をつくり、たくさんさんの玉結びをつくることを今後やっていきたいと思いました。

(大分東分会 廣田典子)

○1日目全体会の講演会では、広島県・毒ガス島歴史研究所の山内正之さんの「大久野島の戦争被害・加害の歴史と今日的課題」の講演がありました。大久野島の毒ガス製造による日本の戦争加害の事実を初めて知りました。「毒ガスがまだ大久野島に埋まっている」「戦争は被害だけでなく加害もある」の言葉が印象に残りました。その後、4つの分散会に分かれ、私は「第4分散会に参加しました。レポートは①「統一LHR「慰霊の日」の取り組み」(沖縄高教組)②「平和の種をまく取組」(熊本高教組)③「大久野島から学ぶ加害の事実」(福岡県教協)の3本で、レポート発表をもとに2日間議論がありました。平和教育をこれからどういう方法で生徒に伝えていくのか、そのために自分たちが何ができるか、戦争は繰り返してはいけないと痛感し、平和について考える良い機会でした。

(竹田分会 伊勢嶋美香)

- ㊦ Hey! 考えていこうぜ!
㊩ 一期一会の生徒との日々
㊫ 和洋あわせてバランスよく
㊬ 学校にいる間にさ
㊭ 生きること、生かされてること
㊮ ちがう意見にも耳かたむけて

ばん! 蛮行ゆるすまじ!

- ㊯ 以上、あらためて考えさせられました。

(日田定分会 福田晃一郎)

学びと交流の旅 in 大分

と き 2月17日(土)、18日(日) ところ 保戸島・佐伯・日出生台

福岡高教組は、毎年、「フィールドワークを通し、人権や・反戦について学ぶ」「高教組組合員同士のつながりを創り、他単組青年部との交流を通して連帯を深める」ことを目的とした「学びと交流の旅」を開催し、九州各県の高教組に参加を呼びかけています。今年度は、大分高教組も共催し、大分県内を巡る「学びと交流の旅 in 大分」を実施しました。大分高教組からは新組合員・青年部組合員を中心に10名が参加しました。

1日目は、津久見市保戸島でのフィールドワークを行いました。保戸島は、戦時中、瀬戸内海へ侵入する連合軍潜水艦を阻むための海軍の施設が置かれており、「地図から消えた島」でした。また、小学校が空襲を受け、教師2人、子どもたち125人が亡くなるという痛ましい歴史があります。

2日目は、佐伯市平和祈念館「やわらぎ」と丹賀砲台園地、日出生台演習場を見学しました。日出生台演習場では、畜産農家の衛藤洋次さんに案内人をお願いし、日米合同演習などについて、お話をお聞きました。

参加者の感想

○保戸島では、島と自然の関係を知るとともに、小学校への空襲の状況を学ぶことができました。平和祈念館「やわらぎ」では、太平洋戦争中の人々が残した記録を見ることで、当時の情勢や心情を知ることができました。丹賀砲台園地は頂上の眺めを堪能しつつ、砲台の製造過程を知ることができました。日出生台演習場では、砲弾が飛んでいるという事実やその地元の方の恐怖を考えると、その現状を自分のこととして捉えたいと思いました。(新生支援分会 河野淳平)

○学びと交流の旅 in 大分は、福岡高、大分高共催で第6回になりました。誤爆によって凄惨な被害を受けた保戸島の小学校や語り継ぐために歌を作成した経緯、実際に歌う現在の子どもたちの映像に、目頭が熱くなりました。生徒たちとの日常が急に奪われてしまうことがあるかもしれない。そう思うと、教員として一瞬一瞬の時間をもっと楽しく、有意義なものにする決意を新たにしました。福岡、沖縄の先生方との交流は、初見なのに旧友のように打ち解けて楽しい時間でした。見聞が広まり、仲間との出会いがある、組合の良さを味わえた2日間でした。

(大分工業分会 隅田智之)

○保戸島海徳寺の骨地蔵、平和祈念館「やわらぎ」での千人針を見て、そして、日出生台演習場では江藤さんの話を通じて、戦争や空襲で失われた命、忘れてはならない過去があることを実感しました。

(三重総合分会 荘田智己)

○「学びと交流の旅」に、青年部組合員と一緒に参加しました。保戸島を初めて訪れ、1945年7月25日の惨状を詳しく学びました。我が子を探し回る親の気持ちを考え、「骨地蔵」を見て、二度と戦争を繰り返してはいけないと改めて誓いました。

ロシアのウクライナ侵攻から2年以上が過ぎました。昨年、高校生平和大使東京行動でカザフスタン大使館を訪問した際の「戦争は外交の最大の失敗である」という言葉が印象に残っています。抑止論に惑わされて軍事力強化をするのではなく、平和的外交にむけて動いていかなければなりません。

他にも佐伯の「やわらぎ」や丹賀砲台跡、日出生台を訪れ、フィールドワークの大切さを実感しました。(三重総合分会 仁木史絵)

学習だけでなく九州の高教組組合員の交流を深めることができました。

企画や当日の案内をしてくださった皆様、大変お世話になりました。参加したみなさん、お疲れ様でした。

故郷の海や山や命を守るために、恒久平和を願い、学び続けます！